第21回図書館総合展における有志個人が交流・逗留できる「場」の検討

―「OpenGLAM JAPAN」としての総合展ブース参加について

**1.はじめに**

　図書館総合展は業界最大のトレードショーという位置づけに加え、公式Webサイトにも掲載されているように、関係者による館種を超えた交流・情報交換、学習環境・情報流通に関する技術や知見の発表、という機会を提供しています。こうした機会はまさに「場」として提供され、個人・法人を問わず多くの関係者が足を運ぶ動機となっています。

　しかし一方で、出展者と来場者、ホストとゲスト、という非対称の関係性が否めないということも事実です。充実した情報交換や成果発表・討議を実現するためには、展示会に関わる全ての人々が相互にホスト・ゲストの役割を果たし、立体的で複雑な関係性を育むことが重要だと考えます。そこで本企画の発起人一同は、特に、参加する有志個人に注目し、それらの人々の交流や逗留が起きうる「場」を検討したいと思いました。尚、ここで言う「有志個人」には、純粋な個人参加以外にも、総合展に対して法人を構成する一員として参加するだけに留まらない個人的にも参加の意義を認める人までを含めた、あらゆる来場者の可能性を想定しています。

**2.「OpenGLAM JAPAN」としてブース参加することの意味合い**

　OpenGLAMとは、文化施設（Gallery、Library、Archive、Museum）のオープンデータ化をIT活用等によって促進する活動です。日本では2013年に活動が開始され、過去の図書館総合展でもフォーラムを2回、実施しました。またこれに関連した活動である「ウィキペディアタウン」は2017年にLoY優秀賞を受賞し、翌2018年にはゲリラ的でもありましたが総合展内で3つのミニセッションを展開しています。

　同時にこうした活動は、GLAMそれぞれに関わる関係者（業務従事者・職員、業務支援者・事業者、利用者）が職務ないしボランタリーに取り組んできました。OpenGLAMの「オープン」は理念としても「ひらく」ことを意味し、GLAMを形成する法人活動に加えられたかたちで、ひらかれた関係性・関わり方によって支えられています。

　趣意書に掲げた「有志個人が交流・逗留できる」ことは、まさに図書館総合展という「機会＝場」を真に万人へひらきたいという想いの実現につながり、これはOpenGLAMの目指す方向性と重なります。そのために本企画は、有志個人の集合である発起人一同によるものだけでなく、OpenGLAMの活動の一環としても総合展への参加として具体化していきたいと考えています。

　そしてそれは将来、図書館総合展のような「機会＝場」がかたちを変えながら続くとき、緩やかで大きなコミュニティが伴走することが、個人を超えて個人の活動の受け皿になりうるという意味も併せ持っています。

　本ブースでは、これまで得られた・これから期待される知見や交流を、OpenGLAMや図書館総合展といった既存の活動の外側からも見えるかたちにしたいと企図しています。そのためブースの中心企画として、集まった有志による「たくらむ会」を開催します。この「たくらむ会（仮）」は、GLAMに関わるあらゆる組織・法人・コミュニティへ向けた具体的な仕組みづくりや新たな取り組みを生み出していこうと考えています。既にイメージできるものとしては、図書館・美術館のみならずWikipediaコミュニティ、OpenStreetMap Japan、リンクト・オープン・データ・イニシアティブをはじめとしたGLAMに関わるあらゆる組織・法人・コミュニティへの呼びかけや交流を図ると共に、21回を迎えた図書館総合展の持つ見本市的な側面＝「祝祭」を堪能し尽せるような多様な楽しみ方を提案したいと思っています。

　以上のような取り組みを目指すとき、改めて重要になるのが「なぜそれをするのか」という問いです。図書館総合展は広く世間に対してGLAM組織が主役となれる「場」でもあります。そのことから、「OpenGLAM JAPAN」の看板がブースに掲げられることで、GLAMに関わるあらゆる人たちが図書館総合展に対してゲストに留まらない「足場」を組むことが可能になります。本ブースは、このように有志個人の交流・逗留を可能にするための基地として機能し、充実した情報交換や成果発表・討議の実現に寄与することを目指します。

**3.主催**

・OpenGLAM JAPAN

・ほか（各地の実践会などに呼びかけを予定しています）

**4.予定される企画（案）**　★検討・募集中★

●メイン企画：「たくらむ会（仮）」　★名称要検討★

　・概要： GLAMをめぐる様々な仕組みの更新アイディアから相談ごと、GLAMへの新しいアプローチ等、新しい企画に向けた討議・意見交換について、特に事前にテーマを設けずに実施する。ただし、扱われる情報がオープンにされる方向であることやできるだけアウトプットを公開していくことを対話のルールとしたい。

・効果： 実際には過去も会場内で都度展開されてきた有機的な打合せが、意図的に表出させられることで、図書館総合展の「使い方」のバリエーションを広げ、内容を深めることを狙う。

・特記： 毎日、時間割を決めて「アンカンファレンス」を実施する（15分×3セッション程度）。アンカンファレンスのテーマは毎日、当日の開場時より募集する（各日で〆切を設ける）。

●サブ企画：「Wikipedia編集大会（仮）」　★名称要検討★

・概要： 開催期間中、常時、しかし緩やかに、誰でもが参加可能なかたちで、図書館総合展やGLAM関係用語についてWikipediaが編集され続けるイベントを実施する。その状況は随時、SNS等の手段で告知・周知される。

・効果： 図書館資料の活用現場を参加者に実際に見せることができると共に、図書館総合展やGLAM関係用語のWeb上でのプレゼンス向上に寄与できる。

・特記： 持ち込み資料、近隣図書館で収集した資料、さらに他のブースのデモ機や資料まで活用しながら情報収集を行うことで、各出店者ブースの特徴も同時に見せることができる。ただし、神奈川県立図書館もしくは横浜市立図書館の協力が必須となるだろう。

●サブ企画：「没年調査ソン（仮）」　★名称要検討★

　・概要： 【カレントアウェアネス掲載のレポートから整理】

　・効果： 著作権保護期間が延長になってもできることがあることを示す。

　・突起： ただし、神奈川県立図書館もしくは横浜市立図書館の協力が必須となるだろう。

**5.フォーラム**

　・日時： 最終日第3コマ目を希望する

　・内容： そもそもの「OpenGLAM」の総括的な紹介と、3日間を通じて実施された「たくらむ会」やその他の活動のアウトプットを披瀝する。同取り組みへの次年度への期待について会場の意見を受ける（ポジ・ネガ両面で総括したい）。

**6.ブース構成**

　・場所： 展示会場内単独の島ブース（どこからも入退出可能としたい）

　・広さ： 600cm×600cm

　・建込： 原則不要（コスト及び有効スペースの問題）

　・備品： 絨毯、机、椅子、電源、プロジェクタ、ホワイトボード、荷物スペース

　・価格： 諸費用込み50万円以内を目指す

**7.備考（発起人メモ）**

　図書館人やオープンデータ界隈ならだれでも知っている、アクティブな中堅層が常にブースに駐在する。オープンなマインドと仕掛けによって、黙々と作業したい人、ほころびを何とかしたい人、新たなことをたくらみたい人、様々な思いがある人が、フラッと立ち寄り、何かを得て、総合展全体の楽しみ方を深堀りできるように工夫する。

　緩いけど企みができる雰囲気、タイムラインをあえて組まず、固くせず、関わった人が総合展会場へ出撃する、また帰還してくるベースみたいな感じ。顔なじみばかりにならないように、ご新規さんがするっと入れるように。超実務の仕組みを変える話、例えば大学・公立間の相互貸借の仕組みの改善とか、商用DB購入のためのコンソーシアムへの布石とか、そういうのがひとつでも生まれるとよい。（以上、福島）

--//　メモ　//--

**＜メンバー＞**　★随時募集★　：複数名が常駐可能なように20名程度／集めてシフトを組む

＊発起人（共同代表）

　・大向／LODI

　・岡本／ARG

　・福島／MLA

＊事務局

　・花田／進行管理プロボノ

　・＊＊＊／会計プロボノ　★お金を扱うポジションは明確にする必要あり★

＊メンバー

　・江草／大学

　・小澤／図書館

　・桂／大学

　・加藤／LODI

　・くさか／Wikipedia

　・小林／横浜

　・小村／大学図書館

　・是住／図書館

　・坂ノ下／OSM

　・佐藤翔／大学

　・瀬戸／OSM

　・高久／大学

　・高橋徹／マップ

　・藤井／図書館

　・海獺／Wikipedia

**＜資金調達＞**　：目標1,000（千円）

　・OpenGLAM残金　200

（有志持ち出し・協賛等）

　・ARG　100

　・国際マイクロ　100

　・カーリル　100

　・ストローリー　100

　・LODI　100

　・ネットアドバンス　200

　・インフォコム　100

　・日向・岡野・大向・福島　200

　・ニチマイ　100

　・ナカバヤシ　100

　・アクセンチュア　200

　・富士ゼロックス　100

　・日産　100

**＜経費（想定支出）＞**

　・ブース＋備品代（運営委員会支払い）　500（千円）

　・旅費等　200

　・事務局経費（？）　300

**＜その他＞**

（事前会話メモ＠京都01.11【福島・花田】）

　・事務局補佐としてインターン・有償スタッフを募集するなどもありか

　・・メールさばき等の単純作業（進行管理による指示）

　・全体的に運営は「軽くする」のが重要／実現可能性・継続性を優先

　・・有志組織をオーガナイズしていくという全体の協調体制は必須

　・早々にスケジュール（タイムライン）をかためていく

　　　01　趣意書構成1月中（とりあえず勝手に書いてみる【花田】）

　　　02　趣意書公開、ビラ撒き（有志の取り組み強調）　★02/27目途（長尾会）★

　　　03　3-4月　メンバー集め

　　　04

　　　05　★05/18（LFF須賀川）★

　　　06

　　　07　★07/06（LFF札幌）★

　　　08

　　　09　★09/28（LFF大阪）★

　　　10

　　　11　★11/12-14（LFF本番）★

　・・総合展事務局MTGスケジュールを長沖さんからもらってタイムラインにマッピング

　・・地方開催では現地にカウンターパートを用意できると11月に向けアイテムが増える

　・・地方開催では当日に向けたメニューを宣言していければ

　・趣意書は理念を大事にする、広め広めに、色がつかないよう、等々

　・GLAMキーマン、キー組織をピックアップ？

　　　G

　　　L　どうにかなる

　　　A

　　　M　課題（アンヌアーレ？「小さいとこサミット」？）

　・・ICOM＠9月（前回リオ3,000人、京都8/31-/9-06）

　・・ICOM前企画として6−7月あたり何かやる予定【福島】

　・・ライブラリーでは足立区「PB」事例は？

　・・再利用可能性としての愛知県美、フォーラムのネタになる？

　・・アンヌアーレの絡みをどう活かすか

以上